



長嶋優依先生



生徒指導主事
村上 滋先生



教頭
田中憲育先生

異学年・異クラスの生徒と話し合う「全校統一テーマ」活動で、主体的に学び、関わり合う力を育てる

鞍手高校（福岡・県立）

縦割りの「分団」ごとに 全生徒が同じテーマで話し合う

「鞍手には、学校行事で育つ、という校風がある」。教頭の田中憲育先生がそう語るように、鞍手高校では伝統的に学校行事をはじめとした特別活動に重きを置いてきた。さらに近年は、SSHならびにSGHの指定を受け、生徒を主体とした課題研究学習にも取り組んでいる。「SSHやSGHの探究型の学びにより、生徒たちは普段から主体的に課題に取り組んだり、意見を交し合ったり、発表したりする機会が多く、そうした力が着実に育まれている」と、田中先生は言う。

今回取り上げるのが、鞍手高校の伝統的な取り組みの一つ、「全校統一テーマ」の活動だ。例えば、「学校生活をより良いものにするために」などのテーマを設けて（図1）、半期に一度、ホームルーム活動の時間を使って各クラスで話し合う。1年生から3年生まで全生徒が一齐に、同じテーマを扱うのが特徴だ。鞍手高校出身のベテラン教員が高校生の頃からあったというこの全校統一テーマの活動は、平成12年ごろからは、クラ

ス単位ではなく「分団」ごとに行われるようになった。分団とは、運動会や文化祭を行う際の縦割りの組織で、青・赤・黄の3色に分かれ、1年間を通して同じ分団で活動する。全校統一テーマの話し合いの際には、異学年もしくは異クラスが混じり合うよう分団内で班分けをして、5〜7人の生徒が班になって話し合う。より多様な生徒、多様な意見に出会うための仕掛けだ。「異学年（学年混在）」にするか「異クラス（同学年）」にするかは、その年のテーマなどによって決める。例えば、「百周年記念大運動会に向けて分団宣言を作ろう」というテーマだった平成29年度前期は学年混在の班で話し合い、現代社会にお

ける諸問題について知ることを目的とした平成30年度後期は、同学年・異クラスの班ごとに話し合った。

学年委員長を中心に 生徒が主体となって進める

全校統一テーマの実施を中心になって担うのが、生徒会の「学年委員長」だ。各クラスの代表である「組長」を束ねるのが職務で、毎年2名が選出される。この学年委員長が主体となり、生徒指

図1 「全校統一テーマ」の例

● キーワード

「主体的」「協働的」「対話的」「論理的」
「自主・自律」「規範意識」「創造性」「多様性」
「共感」「課題解決型」「異学年・異クラス」

● 過去のテーマ

- H14・前期 「週五日制になった今、時間の使い方を考えよう」
- H19・前期 「ルール、モラルを考え、規範意識を向上させよう」
- H19・後期 「鞍高イノベーション～学校外での鞍高生の態度をマナーアップしよう～」
- H23・前期 「活気ある学校にするために、今わたしたちにできること」
- H24・前期 「鞍高生らしい生活を送るために」
- H24・後期 「マナーを身につけよう～社会に出て行くときのために～」
- H25・前期 「よりよい分団制のために」
- H28・前期 「災害を通して分団制を考える」
- H28・後期 「送迎車対策からはじめる鞍高改革」
- H29・前期 「百周年記念大運動会に向けて分団宣言を作ろう～Think deeply, Act kurately～」
- H29・後期 「携帯との適切なかわり方」

導部の担当教員と話し合いを重ねながら、テーマの選定から資料の準備、当日の進行の仕方までを詰めていく。

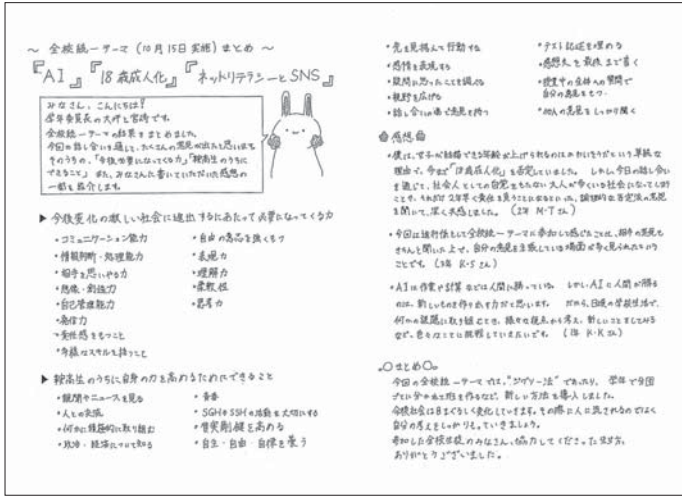
現在、全校統一テーマを担当するのは、長嶋優依先生。生徒指導主事の村上 滋先生もサポートする。平成30年度後期〜平成31年度前期の学年委員長を務める大坪丈将さん（2年生）と宮崎 菜さん（1年生）と共に、平成30年度後期の全校統一テーマを実施した。

「従来は規範意識や学校の課題を主軸としたテーマが多かったが、今回は、生徒から社会課題について話し合いたいという強い希望があった」と長嶋先生。「自分が提案したテーマは却下された」と村上先生は苦笑するが、学年委員長がアンケートなどで集めた生徒の意見のうち数の多かった、「AI」、「18歳成人化」、「ネットリテラシーとSNS」の3つを取り上げることになった。さら

取材・文／笹原風花



図2 学年委員長が作成した総まとめ



話し合いで出た「今後変化の激しい社会に進出するにあたって必要になってくる力」、「鞍手高校のうち自身を高めるためにできること」などを挙げ、最後にまとめコメントで締められている。



「と」、「①現代社会にお
加を通して、所属感を高め、
学校生活に積極的に関わ
ろうとする生徒を育成す
る」と、「①現代社会にお

に、どうすれば意見が出やすいか、議論
が活発になり深まるかといったことを
学年委員長の2人が考え、長嶋先生
に提案。3人で毎日のように話し合い
を重ね、準備を進めていった。

一方、全校統一テーマはホームルーム活
動の時間を使った特別活
動の一環であるため、長嶋
先生は指導案を作成する。

先生の指導案を作成する。
授業の目的は「生徒会企画
による話し合い活動への参
加を通して、所属感を高め、
学校生活に積極的に関わ
ろうとする生徒を育成す
る」と、「①現代社会にお

SSHやSGHと連動した
資質・能力を高める教育の一環

生徒が主体となった全校統一テーマ

ける諸問題について知る」、「②班での
話し合い活動を通して、自身の考えを
表明し、他者の意見を受容することが
できる」、「③社会事象に目を向けるこ
とで、高校生として身につけておくべき
資質・能力について考える」の3点を本
時の目標に掲げた。

当日は、ホームルーム活動の1時間
を使い、「テーマについて賛成・反対の立
場をとり、その理由を述べる(個人で
考えて意見をまとめ、その後、班でジ
グソー法を用いて意見を出し合う)」、
「班替えをして、前のグループで出た意
見を新しい班で共有する。さらに、テー
マについて自由に討議する」、「話し合い
を通じて感じた、変化する社会に対応
するために、今、自分たちにできること
や高校生のうちに身につけておきたい
力について考え、意見を出し合う」とい
う流れで進行。進行役は各クラスの組
長が務め、話し合いが盛り上がるようフ
アシリテートする。最後は各班の代表
者が班内で出た意見を発表し、担当教
員がフィードバックをして終了。生徒一
人ひとりがワークシートに記入したも
のを組長がまとめシートに集約し、学
年委員長に提出する。さらに、学年委
員長が総まとめを作成し、各クラスに
掲示(図2)。生徒から出た意見や感
想を全校生徒の間で共有する。

の取り組みについて、村上先生はこう
語る。
「本校では、なぜだろうという疑問や
どうすればうまくいくだろうという
模索から、自らの課題を設定して解
決していくという課題解決型の主体
的な学びを重視してきました。ホーム
ルーム活動で行う全校統一テーマの活
動についても、独立した取り組みでは
なく、資質・能力を高める教育の一環
と位置づけています。特にここ数年は、
3年間を通じた生徒の成長を感じま
す。SSHやSGHと連動した学びの
成果は、確実に出ていると言えるでし
ょう。今後、こうした特別活動での学
びがさらに進路と結びつくことで、生
徒もより自信と意欲をもって取り組
めるのではないかと思います」

さらに、田中先生はこうつなげる。
「特別活動の主体は生徒ですが、生徒
だけの取り組みではなく、教員も一緒
になつてやるのが大事だと考えていま
す。教員がただの傍観者になってはい
けません。生徒が何をどう進めてどう
成長するか、教員間で意見を交わし合
い、教育力の向上につなげていくことが
求められると思います」

鞍手高校は、「たくましく前進者た
れ」を校是に掲げる。これからの時代
を切り拓く「たくましく前進者」にな
るための素地を、高校3年間でしっか
りと培う。教員間でこうした価値観を
共有し、実践されていることが、先生方
への取材から垣間見えた。

生徒の声

さまざまな意見に触れることで、
自分の思考や意見の質が高まる

僕自身、高校入学前は明確な意
見をもっているタイプではなかった
のですが、全校統一テーマで学年や
クラスを超えているような生徒のいろ
んな意見を聞くことで、たくさんの
気づきや学びがありました。そして、
共感したりいいなと思った。それ
はなかった「自分の意見」を次第に
もてるようになっていきました。特
に学年委員長として全体をまとめ
る立場に立った今期は、より多くの
考え方に触れることができ、自分
自身の思考や意見の質が高まった
と感じます。(大坪さん)

新たな視点や意見、知識に
出会える気づきの場になる

社会的なテーマは、興味があつて
も友達と話題にすることはあまり
ないので、みんなで考えて話し合う
良い機会になると思い、全校統一テ
ーマに選びました。実際に資料を準
備したり意見をまとめたりのなか
で、自分では気づかなかつた視点
や異なる意見に出会い、知識もつ
き、新たな見方ができるようにな
りました。全校統一テーマは、他の生徒
にとつても、そういう気づきの場
になっていると思います。(宮崎さん)



平成30年度後期～平成31年度前期の学年委員長を務める、大坪丈将さん(2年生・写真左)と宮崎 菜さん(1年生・写真右)。